

事例⑥

紙カミソリとその開発ストーリー

カイインダストリーズ(株) 塩谷 俊介*

KAIグループは、創業113年のグローバル刃物メーカーである。主に貝印ブランドの製品を販売し、包丁、ハサミ、ツメキリ、カミソリ、医療用刃物、工業用刃物などの刃物製品をはじめ、その周辺で 사용되는キッチンツールやビューティツールなど約1万点を超える製品を扱っている¹⁾。

昨今、世界的潮流となっているSDGs（持続可能な開発目標）に関して、われわれも対応を迫られており、素材の選定や工程の省エネ化など環境負荷の少ないモノづくりに向け日々試行錯誤を続けている。本稿のテーマである「紙カミソリ」*はその中の取組みから生まれた商品である。

カミソリには、刃体を交換する「替え刃タイプ」と

もち手と刃体が一体の「使い捨てタイプ」（図1）がある。特に使い捨てカミソリは刃以外がプラスチックでできており、使用量も多いことからその排出量を減少させることが大きな課題である。特にホテル向けカミソリは、プラスチック資源循環促進法の規制対象にも指定され、その点からも脱プラスチックの実現が急務になっている。

それに対して紙カミソリは上述の課題を解決するための1つの選択肢になる。紙以外にも再生プラスチックを用いるなどさまざまなアプローチはあるが、紙カミソリは脱プラスチックを突き詰めるとともに、単にエコだけでなく、これまでのカミソリにはない「情緒的価値」も盛り込んだ、イノベータータイプで象徴的な製品にしたいとの思いで開発した。多くのメディアにも取り上げられ、2021年4月に自社ECサイトで限定発売すると、3日後には完売するという大きな反響を得た。そこで以下に製品の特徴と開発ストーリーについて述べる。

*Shunsuke Shioya：研究部 次長
〒101-8586 東京都千代田区岩本町 3-9-5
TEL(090)9153-0874



図1 使い捨てカミソリ

図2 紙カミソリの構造

紙カミソリの特徴

紙カミソリには以下の3つの特徴がある。

- ① プラスチック使用量を従来比で98%削減。
- ② 薄型（3mm）・軽量（4g）で優れたもち運び性を実現。
- ③ 自由度の高いグラフィックデザイン。

1. 従来比で98%のプラスチック使用量削減

1つ目は紙カミソリ開発指針で最も重視したのが使用プラスチック量を極力削減すること。そのため、ハンドルに紙を用いたことはもちろんのこと、刃を収